

にらめっこ

発行責任者 廣瀬邦治 印西市木下東4-6-13
 TEL/FAX 0476-42-5034 Eメール k_hirose839@ybb.ne.jp
 印西・九条の会HP: <http://inzai9jyounokai.webnode.jp/>



イラスト画 江里奈

12万人が国会包囲



国会前に続々集まる参加者
 戦争させない・9条壊すな！
 総がかり行動実行委員会の Facebook より

「戦争させない・9条壊すな！
 総がかり行動実行委員会」が呼
 びかけた、戦争法案廃案！安倍
 政権退陣！を求める「国会10
 万人・全国100万人大行動」
 が8月30日に行われ、「戦争
 法案いますぐ廃案！」の声が国
 会周辺と全国津々浦々で響きわ
 たりました。

印西市の各地からも、北総線、
 JR、バスなどを使い、多くの市
 民が国会前行動に参加しました。
 国会周辺は廃案を求める参加者
 で埋めつくされ、霞ヶ関・日比
 谷公園方面まで、人波とプラカ
 ードがあふれました。

○戦争法案今すぐ廃案！
 ○戦争反対！ 9条守れ！
 ○憲法破壊絶対反対！
 ○安倍政権の暴走止めよう！
 ○みんなの力で暴走止めよう！
 午後2時、3時、3時55分
 に一斉にコールが響きわたしま
 した。

国民の世論と運動が、戦争法
 案の強行成立をねらう安倍自公
 政権を追いつめています。

戦争反対！ 9条壊すな！ 全国でいっせいコール

憲法9条と安保法案を考える市民のつどい



開会のあいさつ
印西・九条の会 彦坂諦さん



東京基督教大学
山口陽一さん



千葉北総教会
大串眞さん



印西市平和行進
実行委員会
早坂義郎さん

〈憲法九条と安保法案を考える市民のつどい〉報告

木森 隆

去る8月29日(土)、30日の10万人国会包囲行動の前日、印西・九条の会(以下、九条の会と略す)は、年金者組合西いんば支部、印西市平和行進実行委員会、新日本婦人の会印西支部、印西コスモス健康友の会、印西市平和委員会と共に、「聞こう!話そう!憲法九条と安保法案を考える市民のつどい」を開催しました。

会の代表の彦坂諦さんのあいさつ・基調講演のあと、会員の山口陽一さんが《東京基督教大学教職員有志はどうして「安全保障関連法案に反対する声明」を出したか》という題で約20分の講演を行いました。山口さんは同大学教授であり、声明の呼びかけ人のひとりです。

そのあと新しい会員である大串眞さんが《私の戦責告白》と題して、宗教者のひとりとして発言。印西市平和行進実行委員会代表の早坂義郎さんは、沖縄新基地建設反対のたたかひの最新状況を語ってくださいました。

第二部は、出席された印西市議3名のあいさつのあと、朗読のパフォーマンス「戦争のつくり方」。2004年の作品ですが、日本が「戦争のできる国」になっていく状況がありありと描かれていました。

そのあとフリーのトーク・ディスカッションがあり、つどいをお開きにしました。参加者71名、中央駅前地域交流館の会議室が満席でした。

以下、今回は比較的若い方々の参加もあり、そのうちのお二人に第一部の感想を書いてもらいました。

【我孫子市より出席した男性】もう謝らなくて良いと言えるのは被害者の側だけ。加害者がそのことを絶対に言ってはならない、ということが心に響きました。巧みに言葉を利用し、心のない言葉を重ねるのではなく、心からの謝罪によってこそ、アジアにおける平和の実現が可能になるということ、そのためにこそ、9条を守り続ける必要があるということを教えられました。

【印西市より出席した女性】ガルトゥング博士が提唱された「積極的平和」の概念を、安倍首相がねじ曲げ、全く反対のことをしようとしているということ、博士ご自身が沖縄来訪中に批判されたことには大きな意味があると思いました。戦争のない世界、ではまだ消極的な平和。差別や貧困、社会の格差などを無くしていく積極的な平和活動を皆で広げていく世界を作り上げていきたい、と思う私たちは、人が殺しあうという究極の反平和行為を永久に放棄する憲法9条を

忘れ得ぬ東京大空襲

紅蓮の炎の戦い（その三）

渋谷 ヨシ

それからどの位たっただろうか。やがて燃え尽すものは燃えつきて、烈風も段々静まっていた。私は、布団の中から這い出して、叔父の焼け跡に佇んだ。瓦礫の中に見つけたのは、真黒に焼けた銅のバケツだけが一つ転がっていた。言い様のない寂しさがこみあげてきた。空襲の始まった頃、再び二階へ荷物を取りに飛び込んだとしたら、おそらくこの命は無かったかもしれない。家は焼けても無事だったこの身が何よりの救いと、私は暫くただ呆然と立ち尽くすのみだった。

気がついた時は、どこを見回しても一帯が瓦礫と化し、余燼が燻っていた。すると『罹災証明書を発行しますから、仮区役所へ貰いに行ってください。』との知らせを受けた。私は、隣組の人等と焼け野原に張られたテントの仮区役所まで歩いて行った。

そこには、長い行列が続いていた。火傷を負った人、火の粉で目を真赤にした人、焦げた防空頭巾を被り、手足を包帯や手拭いで巻いた人、一袋の乾パンを貰って帰ってゆく親子の姿……。まさに戦場のような光景だった。罹災証明書と一袋の乾パンを貰い、また自分の焼け跡に帰って来た。そして、居合わせた人達でお腹を満たそうと、私の持ち出した米と、石井さんの釜で、ポタポタとしか出ない水道の水で、米もとがずに、焼け跡からトタンを拾ってきて、かまどを作って、燃え残った板切れを拾い集め、ご飯を炊いた。お菜は何も無く、本当のただ飯を握って、皆で食べ合うだけだった。

今もお握りを見ると、あの日のお握りが思い出され、物を粗末にすることは出来ない。だが、食べ合っている人の中に、日頃親しくしてた小林松子さん一家の姿が見えず悲しかった。どこへ逃げたのか、火の中に果ててしまったのか、バケツを叩き合った姿を最後に見たまま、誰も分からないという。釜一つを出したことを伝えたい石井さんも、今頃どこにどんな生活をしているのか、焼け跡に残して置いてきた釜も、どうなってしまったか、五十年経っても未だ消息はつかめない。

『元気でね。』『元気でね。』

腹ごしらえをした人々は、一人減り二人減り、焼け跡から去って行った。私はその人達の後姿を寂しく見守るだけだった。

箱崎の事務所がどうなっているのか分からないので、自分で自分を励まし、箱崎へ歩き出して行った。その歩く道に、まざまざと見た黒焦げの死体、十字路に子供を抱えて逃げたのか、やはり黒焦げの母と子の姿が痛ましく、涙が滲んだ。焼けただれた電車、垂れ下がった電線、使用不可能となった消防車、焼け死んだ人の異様な臭いが一層悲しみを深くした。人通りも稀な焼け跡の寂しい道を箱崎まで歩いて行った。

だが、ここ箱崎の店も、知っている人の家も、跡形もなく瓦礫と変わっていた。私はいいようのない悲しさに胸が痛かった。仕方なく、又、北砂へ引き返す途中、深川に姉の家の親戚があり、二回ほど訪ねたことがあったので、訪ねたが、やはりその家も焼かれていた。いつも私を励ましてくれた夫妻も、子等の姿も無かった。後で知ったことだが、この夫妻は煙に巻かれて焼死してしまったとの事。

私は、寂しい気持ちを押さえて北砂へ引き返した。腕時計は午後四時、今も忘れることはできない。

戦争法案の強行反対の意見書を

安全保障関連法案の立法化に関する意見書提出を求める請願

印西市議会議員 小川義人殿

【請願趣旨】

安全保障関連法案が衆議院で採決され、現在、参議院で審議中です。衆議院における審議を通じて、本法案が違憲立法であるとの指摘が急速に広がり、国民の疑問や不安は解消されるどころか、むしろ大きくなっています。本法案について、多くの世論調査で、5割以上の国民が「違憲」と回答し、今国会での成立には7割以上の国民が「反対」しています。衆議院での強行採決は、このような主権者国民の民意を無視するものでした。参議院において民意無視の強行を繰り返すことは、とうてい容認できません。

【請願項目】

憲法の主権在民の立場から、地方自治法第99条の規定に基づき、安全保障関連法案の強行的な立法化に不同意を表明する意見書を、衆議院および参議院議長に提出して下さい。

2015年 8月17日

請願者一同

～ 草の根から共同を広げ 戦争法案を廃案に ～

▼戦争法案廃案！安倍政権退陣！ 当面の集会・宣伝行動の予定

- ・9月 7日（月）午後6時30分～ 印西牧の原駅 宣伝行動
- ・9月 8日（火）午後6時30分～ 新宿駅西口大宣伝
- ・9月 9日（水）午後6時30分～ 日比谷大集会とデモ 日比谷野外音楽堂
- ・9月10日（木）午後6時30分～ 国会前集会
- ・9月11日（金）午後6時30分～ 千葉ニュータウン中央駅 宣伝行動
- ・9月14日（月）午後6時30分～ 国会前集会

* 9月14日以降、最終局面での集会・宣伝行動の予定は、印西・九条の会ホームページ <http://inza9jyounokai.webnode.jp/> にてご確認下さい。

▼電話・ファックス・メールなど、あらゆる方法で国会議員に訴えましょう。

編集後記

▼菅官房長官は8月31日の記者会見で、戦争法案に反対する大規模デモについて「一部の野党やマスコミから戦争法案だとか徴兵制の復活などの宣伝もされ、大きな誤解が生じていることは極めて残念だ」と述べたそうです。

▼いま、全国津々浦々で、若者からお年寄りまで、世代を超えて戦争法案反対の声が広がっています。また圧倒的多数の憲法学者や弁護士、大学人、内閣法制局の元長官や最高裁判所の元判事も、違憲の法案は廃案しないと声を上げています。

▼圧倒的な民意を「誤解」などと強弁し、あくまで戦争法案を強行することは、民主主義破壊の独裁政治に他なりません。いよいよ正念場です。安倍政権を追い込む共同をさらに広げ、戦争法案を必ず廃案にしましょう。